

2020年東京オリンピックに向けての取り組み

附属駒場中・高等学校 横尾 智治

1. 東京オリンピックのレガシーについて

本校の体育館は1964年の東京オリンピックのときに東洋の魔女と言われた女子バレーボールチームの練習会場に使用された。中学3年生と高校1年生の保健体育の授業において1964年の東京オリンピックのレガシーについて学習し2020年の東京オリンピックのレガシーについて想像してみようという取り組みを行った。

感想としては「渋谷を含む都市部の再開発に拍車がかかり都市部を中心に『New Tokyo』へと進化する。また公共事業が増えるため雇用が増大し、経済的な効果も望むことができる。」などの多様な意見が出た。



2020年の東京オリンピックレガシーについて考える

2. トーマスバッハ会長記念式典参加

2016年10月20日に4名の生徒が、筑波大学東京キャンパスで開催された記念式典に参加した。バッハ会長から2020年東京オリンピックは、日本におけるオリビズムを日本独自の方法で表現し、世界に向けて発信できる絶好の機会だという内容の講演がされた。生徒の感想としては「(来賓などの顔ぶれから) バッハIOC会長の影響力の大きさがわかった。オリンピックの規模の大きさを感じた。」などがあつた。

3. 国内 YF 参加

2016年12月23日～25日に生徒3名が、筑波大学つくばキャンパスにて「日本オリンピック・アカデミー第4回 ユースセッション in つくば ～クーベルタン-嘉納ユースフォーラム2016～」に参加した。3名は最初の講義でも積極的に質問しており全活動を通じて意欲的に行っていた。1名は2日目のクロスカントリーで男子参加者中第1位と優秀な成績を残した。感想としては「3日間を通して多くの経験をする事ができ本当に新鮮だった。今後もオリビズムやこの経験を忘れずに活かしていこうと思う。」などがあり刺激的で達成感は非常に大きかったようだ。



国内 YF

4. TIAS 来校 OVEP プログラム実施

2017年3月9日に Tsukuba International Academy for Sport Studies(TIAS)の方がバスで来校し Olympic Values Education Programme(OVEP)を実施した。駒場の中学1年生と2年生の21名が参加した。概要としてはオリンピックの価値を簡単な身体活動を通して考えようというものである。そのときの言語は英語である。中学生は英語に戸惑いながらも身体活動を通してなんとかコミュニケーションをとろうと頑張っていた。オリンピック教育が掲げる5つの教育的価値「努力する喜び (Joy of effort)」、「フェアプレイ (Fair play)」、「他者への尊重 (Respect for others)」、「卓越性の追求 (Pursuit of excellence)」、「バランスのとれた身徳知 (Balance between body, will and mind)」について触れる良い機会となった。



TIAS の OVEP 集合写真